

3. JEITAにおける IEC TC100 の次世代人材育成プログラムの概要と成果 松村 秀一(富士通)
4. JEITA/IEC TC100 の次世代人材育成プログラムの成果
- 4.1 成果報告：OJTによる国際提案に向けた取り組み 稲垣 智裕(京セラ)
- 4.2 成果報告：研修での収穫と改善提案 小出 啓介(ソニー)

3Q1. JEITA のプログラムをほかの TC/SC でも活用したいと思います。

3Q2. 上司の反応はどうだったのでしょうか。

3A2. (小出) 会社の支援が大きく助かりました。たまたま自分の立場がそうだったからかもしれません。

3Q3. 業務と研修の両立から考えると、ヤンプロと JEITA 研修とどちらが参加しやすいですか。

3A3. (小出) 特にありませんが、JEITA は月に1回程度、ヤンプロは毎週なので、ヤンプロのほうが負荷は大きかったです。いずれにせよ、研修に時間を割くことに対する会社の支援や理解が重要だと思います。

3Q4. (松村) JEITA のカリキュラムは、学習しやすいようモジュール設計にしています。また、ヤンプロの日程も考慮して双方に参加できるように日程を調整しました。

3Q5. TC 100 では日本人リーダーがたくさんいて役者も多いと思いますが、他の TC ではそうではありません。他の TC で JEITA の研修を同じように実施するのは難しいように思います。ただ、テキスト資料を提供していただいて応用することはできそうですがいかがでしょうか？

3A5. (松村) 検討したいと思います。JEITA の他のグループからそうした依頼をもらっています。何をすれば、活用できるか検討を始めたところです。

3Q6. ディレクトリの逆引きは共有できるのではないのでしょうか。

3A6. (松村) TC 100 特有の部分を、それぞれの TC 特有の部分に置き換えればよいと思います。

3Q7. JEITA の場合は TC 100 の国内委員会の位置づけで実際の資料を活用できますが、ヤンプロでは、IEC の国際会議実例資料を持ち込みにくいと思います。何か良い方法はないでしょうか。

3A7. (松村) 根本的な解決方法は、IEC 中央事務局に相談するのが良いかもしれません。リーダー育成のために使用するという条件で交渉できるかもしれません。あまりに特徴的な実例では、匿名にしても誰かが特定されてしまうので、難しいと思いますが。